

6

神奈川県横須賀市

横須賀市立横須賀総合高等学校

学科等 / 総合学科
 クラス数 / 全日制24クラス、定時制8クラス
 生徒数 / 全日制960人、定時制280人
 建築主 / 横須賀市
 所在地 / 横須賀市久里浜6-1-1
 工事種別 / 新築
 敷地面積 / 68,466㎡
 延床面積 / 31,576㎡
 竣工 / 2002年10月

総合学科の多彩なカリキュラムと 生徒一人ひとりの個性を支える

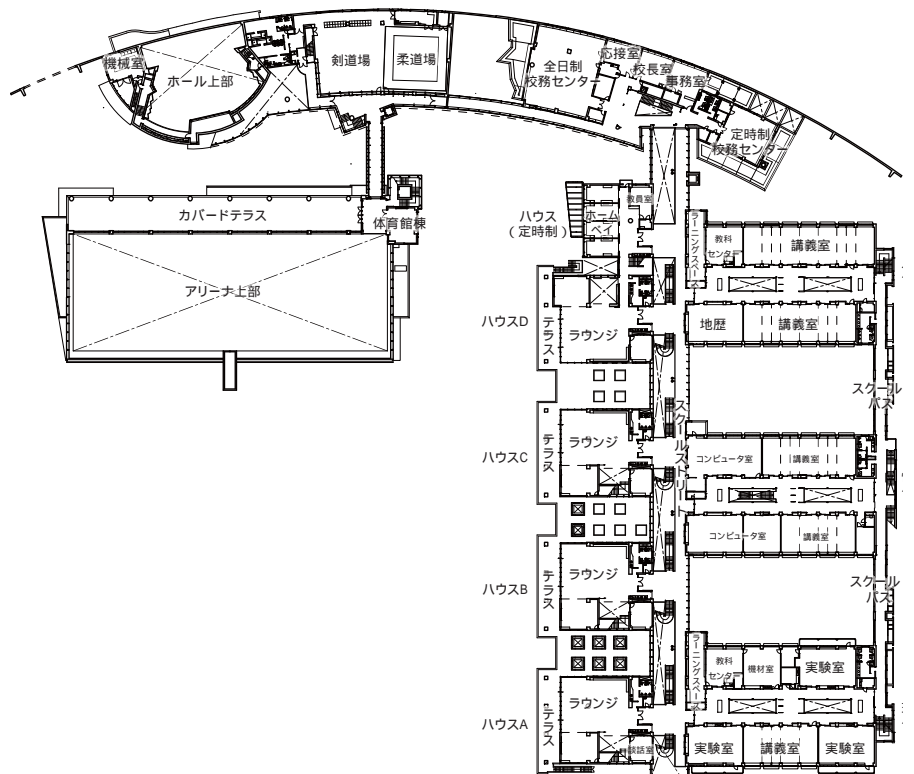
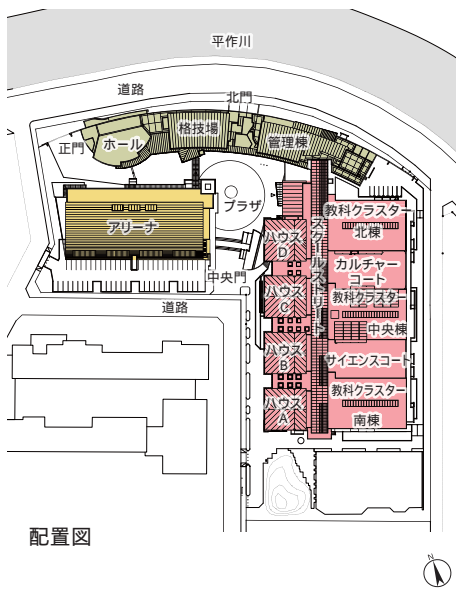
総合学科で生徒は2、3年次に100以上におよぶ系列科目から選択履修。コンピュータを活用した授業からキャリアを見据えた体験活動まで幅広いカリキュラムがあり、対応する施設の配置や運営に工夫を凝らしている。



校舎全景。柵や塀がなく、地域にオープンな環境。大学のキャンパスを思わせる。

計画に見られる 指針改訂のポイント

1. 学習・生活空間の質の維持・向上
2. キャリア教育・職業教育の充実
3. 情報教育の充実

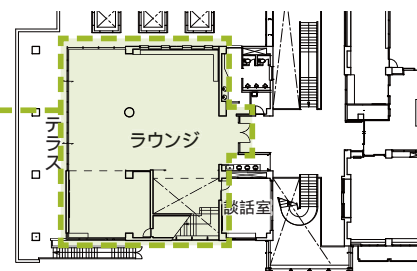


1. 学習・生活空間の質の維持・向上

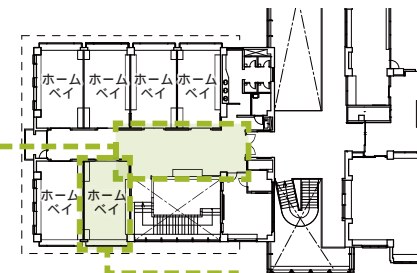
└ 開放的で明るいラウンジやホームベイで快適な居場所を確保



1 2階ハウス。授業がない時に待機できる場所として、ハウス内にラウンジがある。



2 2階Aラウンジ。



3 3階 ホームベイ。



4 3階「ホームベイ」入口。広い間口で出入りやすく、中の様子もわかりやすい。



5 「ホームベイ」には家具やロッカーを配置。

校長の視点

交流とコミュニケーションを育む「ハウス」

ゾーニングの明確化と動線の短縮のため、中心軸の「スクールストリート」を軸として生活の場としての「ハウス」と授業のための「クラスター」を配置しています。「ハウス」はホームルーム教室に代わる生活拠点で、1～3年次および定時制用の4つを用意。2階の「ラウンジ」と3階の「ホームベイ」で構成され、フロア間を専用階段でつなげています。両方とも授

業がないときに待機できる場所で、ラウンジは自習と交流のためのオープンな空間として、目的に合わせて柔軟に使えるようにしています。ハウスごとの個性と帰属意識につながるよう、基調色を柱や壁面に使ったカラーコーディングを施しています。「ホームベイ」はロッカールームとしての機能とともに、狭い空間に工夫して家具を配置し、仲間同士のコミュニケーションの場になっています。(写真1、4、図2、3、5)

ソフトとハードでキャリア教育を支援

1年次の「産業社会と人間」、2・3年次の「総合的な学習の時間」を中心に、キャリアを見据えた授業選択ができるようになっています。将来の進路に関連するテーマを設定し、調査・研究、発表まで行えるよう情報環境や施設を整備しています。キャリアセンターには就職や進学を含めた進路関係資料を配備。キャリア支援グループの教員による生徒の相

2.キャリア教育・職業教育の充実

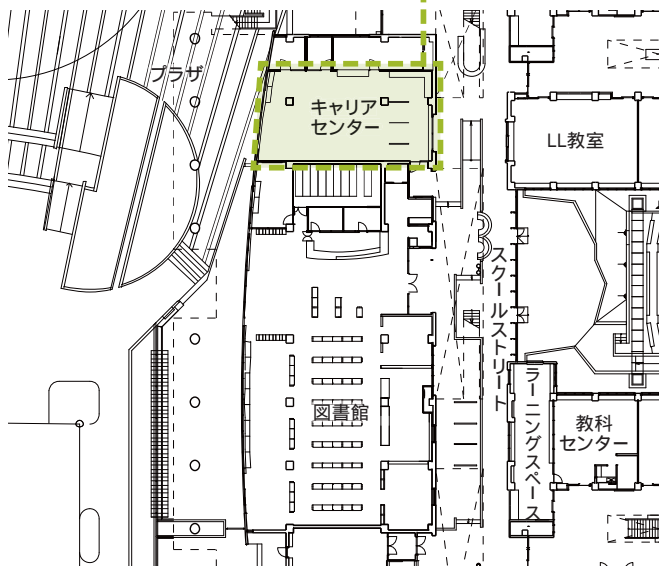
└生徒の個性とキャリア教育体制を支える施設環境



6 キャリアセンターではキャリア支援部の教員が生徒の相談体制を取る。



7 キャリア調査の発表風景。普通教室ではスクリーンとプロジェクタを配備しており、パソコンを使った発表ができる。



8 1階キャリアセンターと図書館周りの平面図。



9 福祉室。介護の実習用に複数の電動式ベッドを備えている。

教職員の視点

談体制を敷いています。(図6.8)
 生徒一人ひとりが自らの生き方を考えた上で進路を選択することができるよう複数担任制をとると同時に、キャリアカウンセラーの配置など、ガイダンス機能を充実させ、生徒のサポートをしています。すべての生徒に、キャリアに不可欠なプレゼンテーション、コミュニケーション、情報活用、自己教育などの能力が備わるような環境を整備しています。(写真7、図8)

キャリア教育向けの教室

キャリア教育に対応した座学と実験を両立できる施設が整っています。理科クラスターには、生徒が対面して座る一般的な型式の実験室が3室と生徒全員が前を向いて座る講義室兼用の実験室が2室あります。体験活動のため福祉実習室や本格的な陶芸窯が整備されており、プロフェッショナルを目指す生徒の教育に役立っています。(写真9)

パソコンの活用が必修

生徒は全員がノートパソコンを携帯しており、無線LANにより校内のどこからでも学内サーバーやインターネットにアクセスできます。情報クラスターには、パソコンを備え付けた教室と生徒がノートパソコンを持ち込んで活用できるLANケーブルが整備された教室があります。このような施設により、情報を必修修として課すことができるのが強みです。
 パソコンは調べ学習など教科の授業で

3.情報教育の充実

└生徒一人ひとりのパソコンとネットワーク環境の相乗効果



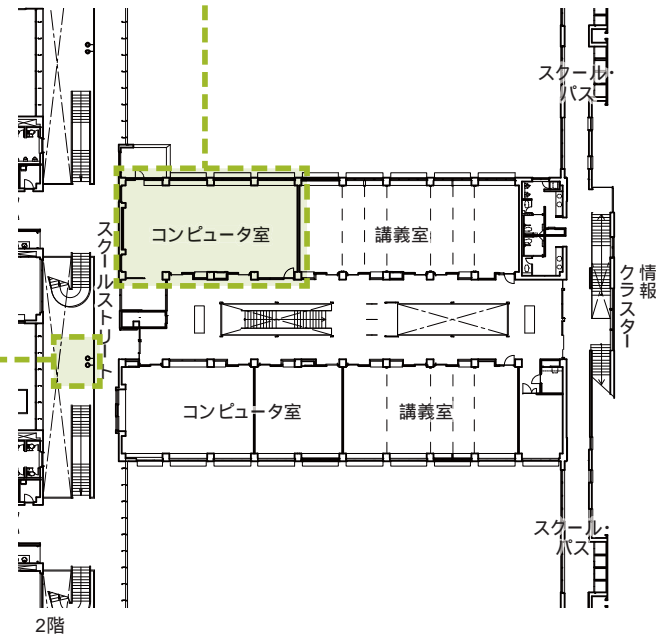
10 パソコンやLANケーブルが整備されているコンピュータ室。



11 講義室では生徒全員が自分のパソコンを使う。



12 パブリックスペースの情報モニターでは、連絡事項やクイズ形式の学習などさまざまな情報を発信。



13 2階情報クラスター周りの平面図。講義室は、可動間仕切りにより分割できるようになっている。

使用するほか、選択科目の登録、アンケート、試験範囲の連絡やレポート提出などで幅広く利用しています。情報の教員免許を持つ教員が常勤5名、非常勤1名おり、生徒はワープロや表計算などのソフトを1年終了時に使いこなし、卒業時にはコンピュータを活用した発表技術を習得するレベルにまで達しています。(写真10、11、12、図13)

迅速な情報のやりとり

学内サーバーを活用して提出課題やテストの模範解答をペーパーレスで提示するのが便利です。生徒の自主採点が迅速になりました。情報モニターやメールのおかげで連絡もスムーズに行えます。またCCメールで他の生徒や教員と情報共有も図れます。図書室には司書が常駐し、きめ細かいサービスをしています。新聞は主要なものを1年間保管しており、調べ物に役立っています。(写真12)

生徒の視点

キャリアセンターには進学や就職などの情報があり、進路相談に応じてくれるので助かります。先生との相談の際には、相談室やラーニングスペースも利用しています。(図6) 学習・生活空間で気に入っている場所はラウンジやホームベイ、図書室です。ラウンジは空き時間の自学習の場所として、図書室は調べ学習でよく利用します。クラスメイトと顔を合わせることが少ないため、ホームベイは交流の場として大切だと思います(写真1、4、図2、3、5、8)